令和５年度　伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討会　会議の概要

【日　時】令和５年 11 月２日（木）19 時 00 分～20 時 10 分

【場　所】伊豆市役所別館　２階 大会議室

【出席者】28 名

（敬称略）

機関・団体・役職名等	氏名	役職
新中学校開校準備委員会　委員	植松　真由美	会長
伊豆市商工会長	山田　健次	副会長
株式会社 FMIS	尾原　睦	委員
伊豆市子育てママスタッフ	工藤　絹衣	委員
三島信用金庫修善寺支店長	酒井　正樹	委員
NPO サプライズ事務局員	髙橋　いづみ	委員
令和５年度伊豆市区長会副区長（修善寺地区区長）	土屋　涼子	委員
県立伊豆総合高等学校校長	松浦　真一郎	委員
伊豆市民生委員	山下　数馬	委員
伊豆市長	菊地　豊	
副市長	伊郷　伸之	
教育長	鈴木　洋一	
総合政策部長	新間　康之	
総務部長	滝川　正樹	
市民部長	佐藤　達義	
健康福祉部長	大石　真	
産業部長	井上　貴宏	
建設部長	大村　俊之	
教育部長	小塚　剛	
危機管理監	加藤　博永	
子育て支援課長	森嶋　哲男	
企画財政課長	土屋　直也	事務局
企画財政課 主幹	杉本　弓弦	事務局
企画財政課 伊豆市政策アドバイザリースタッフ	深澤　香織	事務局
企画財政課 主査	太田　成一	事務局
企画財政課 主任	三須　博之	事務局
企画財政課 主事	山田　息吹	事務局
企画財政課 主事	金刺　あかり	事務局

【資　料】

- 次 第
- 参考資料１－１ 伊豆市まち・ひと・しごと創生第２期総合戦略（概要版）
- 資料１ 令和５年度　市民アンケート調査結果概要
- 資料２ 第２期総合戦略の KPI 及び施策評価について[令和４年度分評価]
- 資料３ 伊豆市を、もっと好きになるために
- 資料４ 総合計画と総合戦略について

開　会

１．議事

（１） 伊豆市総合戦略概要について【参考資料１－１】 に基づき、事務局より説明

≪ 質疑応答・意見交換 ≫

※各委員から特に意見等はなし

（２） 令和５年度市民アンケート調査結果について【資料１】 に基づき、事務局より説明

≪ 質疑応答・意見交換 ≫

（委員）　伊豆市に住みたくないという回答に対し、具体的な理由を問う設問はあったか。
（事務局）　具体的な理由を問う設問は設けていない。

（３） 第２期総合戦略における取組と施策評価について【資料２】に基づき、事務局から説明

≪ 質疑応答・意見交換 ≫

（副会長）　移住者にとってどのような住居（建物）が求められているのか。
（委員）　一戸建ての賃貸住宅が人気である。田舎暮らし（広い家、広い庭での生活）をしたいと考える方が多い。
（副会長）　伊豆の国市への流出が多いという認識がある。中伊豆地区の市営住宅を活用することはできないか。
（建設部）　市営住宅の利用者には、一定の要件がある。ニーズに合わせて、活用については検討していく必要があると考えている。
（副会長）　湯ヶ島の市営住宅は広々としている認識。空き物件として有効活用できるとよいのではないか。
※事務局より、「キャンプ」と「地域資源」を融合したアドベンチャーツーリズムによる、人の流れを呼び込む好循環構築プロジェクトについてもKPIの進捗状況を含めて説明。

２．意見交換

（１）伊豆市を、もっと好きになるために【資料３】に基づき、事務局より説明

≪ 質疑応答・意見交換 ≫

（委員）　取材をしても「うちの市には何もない」と答える人が多い。自分自身が住んでいる地域を知り、好きになるための場がもっと必要ではないか。市内で開催されている各イベント参加者の固定化も気になる。幅広い市民が参加できるようにすることが必要ではないか。
（委員）　「伊豆市のいいところをあげよう」という題材で子供が授業を受けたところ、「自然」以外にいいところがあがらなかった。子どもにもわかりやすく伊豆市のよさを伝えていく必要があるのではないか。また、自分事で考えると医療機関も人手不足という現状があり、病院がなくなってしまう危機感がある。それに伴い他の施設もなくなっていく不安が大きい。
（委員）　長泉に劣らない子育て政策を行っているが、生活環境面で不便さを感じているのかもしれない。不便や不安についての解消は、伊豆市が長期ビジョンを市民に示し、それを伝えていくことが必要だと思う。
他自治体の面白い事例を紹介する。東京駅にて同郷を集める飲み会をしている。関係人口増加や故郷へ戻ってくる仕掛けを作ることが重要なのではないか。東京等で伊豆市出身者が集まり、伊豆市の事を考えたり、話す場があると良いと思う。
また、職場の若い職員（市外在住者が多い）に伊豆市の良いところを聴いたところ、「とにかく伊豆市は人がいい。いい人が多い。」という声が多かった。伊豆市の強みは、人の温かさではないか。
（委員）　私は、移住相談センターに勤めている。伊豆市への移住者は子育て世帯が多い認識。相談件数が昨年度比で１割増えている。他市町と比較しても相談に来られる方が多い。移住を検討している方に対して「ゆとりのある教育環境」をアピールしている。長泉町と比較する際にも、「子どもが少ないこと」を逆手にとって、伊豆市の保育園は一人の保育士が見る子どもの数が

国の規定よりも少ないので目が行き届く。保育士にとってもゆとりのある保育ができると認識してもらえることで、保育士の確保にもつながるのではないか。市民にも気づいてもらえるように仕掛ける必要がるのでは。

（委員）　富士見平の小中学生は０人。リタイアした人が来ても人口は増えていかない。長泉が住みやすい街であることは、新聞やＴＶでの影響で知っていた。本会議で、伊豆市の子育て支援も負けないくらい充実している事を知った。認知していない人はまだまだ多いと思う。幅広い世代に対して充実した政策をＰＲし、活気ある街にしてほしい。

（委員）　伊豆総合高校の卒業生との会話で、「都会（沼津や三島）の高校に行かなくてよかった。」「伊豆市は人が優しい、空気がきれい、緑が多い。」と言う子もいる。若い世代でも、都会に行かなくてよかったという意見があった。私も伊豆市に住んでみたら湯の国会館に「伊豆市民割」サービスがあることに驚いた。外から来る人へお金をかけることも必要だが、住んでいる人に優しいサービスや地元の人に地元を知ってもらうサービスや施策を検討してはどうか。

（委員）　学童保育の事業について支援を続けてほしい。身近でも、「学童保育で受け入れてもらえないと仕事を辞めるしかない。」という声が聞こえる。幼児教育だけではなく小学生に対しても厚い支援をお願いしたい。今後も待機児童「０」をうたい続けてほしい。

（副会長）　熱海が活性化している要因は、移住者が元気だからだと思う。伊豆市においても、外から来た移住者の声を聞く時間をつくることが重要だと思う。自発的に市民が動く事。市民が他人事になってはいけない。“市民が楽しい”と思える伊豆市にする事が大切だと思う。

３．その他

（１）総合計画と総合戦略の統合について【資料４】に基づき、事務局から説明

※各委員から特に意見等はなく、総合計画と総合戦略の統合方針について了承頂いた。

（市長）　新幹線がある長泉町などと伊豆市は戦うフィールドが違う。伊豆市は伊豆市なりに、都市整備をして来た。委員のみなさまのご意見はとても参考になった。伊豆市の良さをもっと PR していくことが大切である。また、ご意見の中にあった、伊豆市は保育士の数に対して子どもの数が少なく、１人１人の子どもへの目が行き届きやすい。このような視点は素晴らしい。今後もご意見を承りたいと思うので、宜しくお願いしたい。

（事務局）　皆様から本日いただいた貴重なご意見については、とりまとめのうえ公表させて頂きます。
以上をもちまして、令和５年度伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討会議を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

【閉　会】